

令和 5 年度 陽西中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

豊かな心と健やかな身体をもち、自ら考え行動するなど、意欲をもって自主的・創造的に生きることができ、日本はもとより国際社会に貢献できる人間を育成する。

(2) 具体目標（目指す生徒像）

- ・敬愛の心があつく心情豊かな生徒
- ・よく考え主体的に行動できる生徒
- ・体力気力の充実した健康な生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

グローバル社会の進展、情報社会・科学技術の進展、持続可能な社会づくりへの対応、感染症の影響や自然災害の激甚化など、これからの社会は予測を超えた変化が起こることが想定されている。このような中で学校の使命は、生徒に確かな学力をつけ、豊かな心を育むとともに、激動の社会を生き抜くために必要な「生きる力」を確実に身に付けさせることである。

このために、「夢や希望に向かって挑戦するたくましい生徒の育成」を重点目標とし、人権尊重の精神を基盤に全教育活動を通じて、「認めてほめて伸ばす指導」の充実を図り、生徒の「自己肯定感」を高め、自信と誇りをもって生き生きと学校生活を送る生徒を育成したい。

教職員は、「教職員の生き方改革」と「学校における働き方改革」を推進し、業務の効率化や労働時間の適正化を図るとともに、同僚性を高め、組織力と専門性の向上を目指す。

<目指す学校像>

- ・笑顔と潤いがある学校
- ・感動と活力にあふれる学校
- ・地域とともに歩む学校

<目指す教職員像>

- ・人間性豊かで信頼される教職員
- ・使命感と情熱をもつ教職員
- ・幅広い教養と専門性を身につけた教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

重点目標 「夢や希望に向かって挑戦するたくましい生徒の育成」

(1) 確かな学力の育成

- ・確かな学力の定着を目指して、宇都宮モデルによる授業を展開し、活動のねらいを明確にしながら、「対話」を通した主体的で深い学びを促進する。
- ・生徒の実態を踏まえた指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに、家庭学習を充実させ、生徒一人一人の確かな学力の育成に努める。

(2) 潤いと活力がある学校づくり

- ・どの生徒にも温かい雰囲気を受け入れる思いやりのある学級づくりに努めるとともに、個に応じた多様な居場所を確保する。
- ・時間を意識した学校生活に重点を置きながら、基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ・道徳科、読書活動、あいさつ運動、交流活動等の充実を図り、教育活動全体を通して、やさしさと思いやりにあふれた心の教育を推進する。
- ・学校行事、部活動、体験活動等を通して社会性を養い、生徒会活動、学級会活動、清掃活動等を通して自治意識を高めるとともに、挑戦する心、あきらめない心、困難を乗り越えようとする強い意志などのたくましさを涵養する。

(3) 地域とともに歩む学校づくり

- ・学校情報の積極的な発信と地域教育資源の活用，地域学校園・小中一貫教育の推進と地域協議会等との連携，生徒の地域貢献活動の実践等による，地域とともにある学校づくりを推進する。
- ・文教地区の強みを生かし，地域に根ざした豊かな食農体験活動や近隣高校との連携を図ったキャリア教育を推進する。
- ・保護者や関係機関等との連携を図り，生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導やインクルーシブ教育の充実に向けた特別支援教育の推進に努める。

(4) 教職員の「生き方・働き方改革」の推進

- ・「学校における働き方改革」を推進し，業務の効率化や労働時間の適正化を図る。
- ・教職員の使命を自覚し，同僚性を高めながら，組織力と専門性の向上を目指す。
- ・定年延長制の導入を機に，仕事と私生活を見つめ直す「生き方改革」を進め，各教職員がウェルビーイング（すべてが満たされ，継続性のある幸福）を追求する。

[陽西地域学校園教育ビジョン]

『自己の「よさ」を生かすとともに他者を尊重し，粘り強く頑張る子どもの育成』
～協働的な学びを通して，自己肯定感を育む教育活動の推進～

4 教育課程編成の方針

- ・「学習指導要領」の趣旨に則り，「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」のバランスの取れた育成を目指す。
- ・本校の学校経営方針のもと，教育目標の実現を目指すとともに，「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」，「令和5年度指導の重点」等を踏まえながら，教科横断的な視点で各教科等の関連付けを図った教育課程を編成する。
- ・学校課題や重点目標，特色ある学校づくりを具現化した教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- 教職員の学校経営への参画意識の高揚と組織的な企画・運営を推進する。
- ・業務改善の推進により，教職員の勤務意欲を向上させるとともに，生徒と向き合う時間を確保する。
- ・教育目標実現のための学年・学級目標の設定，具体策の明確化と実践に努める。
- コロナ後の教育活動を精査し，必要な学習機会や体験活動等を回復させ，教育活動を充実する。

(2) 学習指導

- 確かな学力の育成を目指して，学習指導要領に基づき，教育活動のねらいを明確にし，わかる授業・できる授業の実践と生徒一人一人の良さを生かす活動の充実に努める。
- ・習熟度別学習，ティーム・ティーチング，重点的な指導や繰り返し指導，一人一人の生徒の理解の程度や興味・関心に応じた指導など，指導方法・評価方法を工夫する。
- ・帯時間や放課後等を活用して，基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けた補充学習等を効果的に行い，授業中に身に付けた知識・技能のより確実な定着を図る。
- ICTを効果的に活用し，個別最適な学びを実現するGIGAスクール構想を推進する。

(3) 児童生徒指導

- 時間を意識した学校生活に重点を置きながら，基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ・教職員は生徒との信頼関係を構築し，魅力にあふれ安心して生活できる学校づくりを推進する。
- ・日々のコミュニケーションに努めることはもとより，年5回の「家庭でのいじめ悩みアンケート」や年2回の教育相談と三者懇談，宮っ子ダイヤリーの活用などを通して，問題行動の未然防止やいじめゼロを目指す。
- 心の教育の充実により，自信や自己有用感，たくましさ，規範意識，思いやりなど，豊かな心を育む。
- ・定期的にケース会議（教育相談，生徒指導，特別支援）開催，担任をサポートするチーム支援を行う。
- ・何事においても早期発見・早期対応に心がけ，早期解決を図る。

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）

- ・保健体育科の授業を中心に，様々な運動を経験し，生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに，健康の保持増進と体力の向上を図る。

○食に関する正しい知識や正しい食習慣を身に付けられるよう、組織的に食に関する指導に取り組む。
・避難訓練や交通安全教室を通して、安全を確保するための判断力や実践力を育成する。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 生徒は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 生徒の肯定的回答 ともに 85%以上	① ○「主体的・対話的な深い学び」を意識した授業改善に努め, 「学び合う」ことで学習が深められるような授業の展開を工夫し, 実践する。 ② 定期テスト前の質問学習やテスト後の補充プリントの作成, 学習サポート, 教科部会の効果的实施等学校体制として取り組む。 ③ 家庭との連携を図りながら, 自主学習ノートの指導を通して, 家庭学習の習慣化を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 88.6%でありおおむね目標を達成したと考えられる。教職員の肯定的回答は 72.1%で目標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 ・家庭学習の習慣化を図るために自主学習ノートの指導を行う。また, 自主学習用のプリントを用意するなど生徒が取り組みやすい環境を整える。 ・様々な学習形態を工夫し, 「対話」を取り入れた協働的な学びを活かした授業づくりに努める。 ・教科部会で, 生徒の学習意欲を引き出せるような指導法の実践例や ICT の有効な活用法などについて共通理解を図る。 ・自主学習の取り組み方について, 授業の中で説明し, 実践させる機会を設ける。また, 生徒が自主学習の有用性を実感し, 主体的に学習に取り組めるよう支援する。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 生徒は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 90%以上	① 道徳の授業を通して, 自己理解を深め, 自分のよさを知ることで自己肯定感を高めさせるなど, 思いやりの心について考えさせる。 ② 道徳の年計を見直し, 道徳の授業と学校行事を関連させたり, 体験活動を位置付けたり, 様々な体験を想起させたりすることで, 道徳の実践につながるようにする。 ③ 生徒の良さを褒めて伸ばす教育をすることにより, 自己肯定感を育む。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 69.8%であり, (昨年度を 24.8P 下回る) 目標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 ・道徳の授業や日々の友達との生活での経験を通して, 「命」や「思いやり」, 「感謝の心」などに重点を置いた心の教育を全教育活動において実践する。深く考えさせるよう促し, 生徒の優しい心を育むとともに, 自己肯定感の醸成に努める。 ・学校のあらゆる教育活動を通して, 思いやりの心について学んだことが日常生活で実践につながるよう, 声かけや雰囲気づくりを学校全体で取り組んでいく。

	A3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに 80%以上	① 学年・学級・生徒会専門委員会・部活動ごとに目標を決めたり、学校行事のスローガンを設定したりすることにより、目標を明確にするとともに、協力して目標に向かって努力する態度を育成する。 ② 各学級・専門委員会・部活動において、振り返りを行わせ、生徒自らの取組を今後に生かす指導を充実させる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 82.9%で、おおむね目標を達成することができたと考えられる。教職員の肯定的回答は 72.1%で、(昨年度を 4.5P 上回る)目標を達成することができなかった 【次年度の方針】 ・学級活動や総合的な学習の時間、学校行事を通して、目標をもつことや自己理解、将来の夢の実現に向けて努力することの大切さを考えさせる。 ・「Will ナビ」等を活用し、生き方や夢の実現に向けて努力することの大切さを考える場面を設定する。
1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 85%以上	① 「うつのみや元気っ子プロジェクト」を活用するなど、食育や体育的活動の充実を図り、自分に合ったバランスのよい食生活をするとともに、体力増進に努めるなどして、生涯を通して健康な生活を送ろうとする態度を育成する。 ② 「交通安全教室」「薬物乱用防止教室」「がん教育講演会」「いのちの授業」「性教育出前講座」等を実施して、健康や安全への意識の向上を図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 72.1%で、(昨年度を 19.8P 下回る)目標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 ・お弁当の日や給食指導を中心にした食育の強化及び体育の授業内での体力増強プログラムの実施、また外部講師による出前講座の活用で、生徒が健康・安全に過ごすことができる能力向上のための取り組みを推進する。 ・「うつのみや元気っ子プロジェクト」に則り、健康、体力、食育、安全の4つの柱から総合的に生涯を通じて健康で安全な生活ができる能力の育成に努める。
1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに 80%以上	① ○進路学習やキャリア教育の充実を図りながら、自分の良さや個性を理解し、将来の夢をもたせ、夢の実現に向かってあきらめずに努力する態度を育成する。 ② キャリア教育の一環として、地域や卒業生等の講演会を行い、生徒の意識向上を図る。 ③ 地域性を利用した高等学校との交流を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、88.0%で十分に目標を達成することはできたと考えられる。教職員の肯定的回答は、76.7%で目標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 ・「WILL ナビ」等を活用し、生き方について考えながら、自分の良さや個性を理解し将来の夢を持たせるよう考える場面を設定する。
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① 英語科の授業において、英語で伝え合うことの楽しさが味わえるような言語活動を多く取り入れる。 ② A L T の学校行事等への参加や休み時間等の交流を通して、生きた英語に触れる機会を充実させる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 68.8%で、目標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 ・英語科の授業において、英語で伝え合うことの楽しさが味わえるような言語活動や A L T と直接やりとりをするような場面を設定する。 ・休み時間や学校行事における A L T との交流を通して、生きた英語に触れる機会を一層充実させる。

	A 7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① 生徒が地域でのボランティア活動に積極的に参加し、地域の人々との交流を図りながら、地域に関心を持ち、地域の良さを知らることができるように充実を図る。 ② 「総合的な学習の時間」における地域を知る活動（宇都宮学）の充実を図る。 ③ 給食の献立に「地産地消」の食材を用いるようにし、栄養教諭による献立の説明で宇都宮の農産物について理解・関心を深めさせる。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 81.5%で、(昨年度を 7.2P 上回る)おおむね目標を達成することができたと考えられる。 【次年度の方針】 ・地域の人々とのボランティア活動（清掃活動等）を実施する。 ・地域を知る活動として宇都宮学を位置づけ、教科書をもとに、各学年、系統性をもって進める。また、各教科との連携を図る。 ・献立に旬の地域食材を生かしたメニューを取り入れる。また、給食時の放送を使って献立の説明を行うことで、地域の農産物を生徒に周知する。
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに 80%以上	① 各教科等において、効果的な ICT 機器（1人1台端末）の利用を促進し、学習効果を高める。 ② 図書館司書の授業参画を図ったり、生徒会専門委員会の活動を工夫したりするなど、図書館の利用促進を図る。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、83.7%（昨年度を 0.1P 下回る）で、おおむね目標を達成することはできたと考えられる。生徒の肯定的回答は 67.5%で、目標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 ・GIGA スクール構想により、ICT 機器の活用を継続する。 ・1人1台端末の利用をさらに活発にできるように啓発をしていく。 ・図書館司書の積極的な授業への参画を図る。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに 80%以上	① 生徒会活動や総合的な学習の時間等において、「SDGs」についての理解を深める学習を位置づける。 ② 生徒会専門委員会の活動を工夫し、環境問題に関心をもたせるために、節電・節水や3R活動を実践させるなど、身近なところからできることを意識させる。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、80.8%で目標を達成することができた。教職員の肯定的回答は、65.1%（昨年度より 8.3P 上回る）で目標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間に SDGs の学習を位置づけるとともに、環境・防災を扱う授業を学級活動で取り入れる。 ・SDGs への取り組みに対し、教科横断的に学習できるように配慮し、生徒自身が「持続可能な社会」についての興味関心を深められるような活動を取り入れる。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別な支援を必要とする生徒について、必要に応じて指導カルテを作成したり、ケース会議を実施したりして、適切な支援ができるようにする。 ② 生徒指導部会や教育相談部会で、生徒の状況についての情報共有や意見交換を活性化させ、組織的・段階的な対応を検討する。 ③ ユニバーサルデザインについての研修を深め、授業の中に取り入れることにより、合理的配慮への意識の向上を図る。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、97.7%で十分に目標を達成することができたと考えられる。 【次年度の方針】 ・特別支援教育コーディネーターを中心として、個別の指導カルテの活用やケース会議の開催、部会等で生徒の状況について共通理解を図ることができた。また、必要に応じて他機関と連携しながら積極的支援を行う。 ・情報の共有を図り、必要に応じて他機関等との連携を図りながら、段階的・組織的な対応を行う。 ・生徒指導カルテを継続して作成し、学年ケース会議などで活用する。

3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 保護者の肯定的回答 ともに85%以上	① 生徒が相談しやすい環境を整備するとともに、教職員は生徒理解を深め、信頼関係の構築に努力することで、いじめの早期発見に努める。 ② 生徒主体の「いじめ根絶集会」を実施するとともに、教職員は「いじめはどの生徒にも起こりうる」との認識の下、いじめ防止対策についての取組をより充実させ、いじめの起こらない環境づくりに努める。 ③ 教職員が自らの人権感覚を磨くための研鑽に努め、いじめ防止に対する意識といじめに関する対応力を向上させるために校内研修を充実させる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、90.9%（昨年度より2.6P下回る）で、十分に目標を達成したと考えられる。保護者の肯定的回答は71.4%で、（昨年度を11P下回る）目標は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・いじめ根絶集会を実施し、未然防止のための取組を行う。 ・今年度の取組を継続し、生徒との信頼関係構築に尽力する。 ・いじめの起こらない環境づくりに努め、「いじめ根絶集会」を効果的に学級への問題提示の機会とする。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 90%以上	① スタンダードダイアリーを活用したり、教育相談を行ったりして、生徒一人一人に寄り添った指導をする。 ② 保護者との電話連絡や必要に応じた家庭訪問を行うなどして、家庭との協力関係を構築する。 ③ 風通しの良い職場環境の維持に努めることで、気になる生徒の早期発見、早期対応を可能にし、校内支援体制を活用して、新たな不登校の生徒を生まないよう支援する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は85.2%で、（昨年度を4.8P下回る）目標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 ・ダイアリーの活用や教育相談活動、保護者との連絡を密に取り、また、必要に応じて家庭訪問を実施し、一人一人の生徒に寄り添った指導を行う。 ・校内支援体制を充実させるとともに、効果的に活用し、生徒の心身の健康状態の変化等に対応するなど、新たな不登校生徒を生まないよう支援する。 ・風通しのよい職場環境の維持、また情報の共有と、多方面からの支援を行っていく。
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上 保護者の肯定的回答 90%以上	① 学校行事等を通して、生徒が目的意識をもって協力しながら主体的に活動して達成感や自己肯定感を得られるような場を設定し、活動を支援する。 ② 生徒会活動を通して、生徒の自主的な活動を推進するとともに、委員会活動の活性化を図る。 ③ 学級経営や教育相談を充実させ、「居がい」のある明るい学校づくりに努めるとともに、教職員間の柔軟な意見交換を活性化させる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は92.9%で、十分に目標を達成したと考えられる。保護者の肯定的回答は、86.9%で、目標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 ・コロナ禍も終わり、より工夫して行事等が実施できるようにする。 ・学校行事、生徒会活動は、生徒が主体的に運営が行えるような場を設定する。 ・各学年共通理解のもと、学級経営の充実を図り、教育相談体制の強化も図る。 ・教職員間で柔軟な意見交換ができる環境づくりに努め、活性化を図る。

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 90%以上	① 個に応じたきめ細かな指導を行う。数学科及び英語科においては、習熟度別学習やT・Tなど、指導形態を工夫し、学力を向上させる。 ② 日々の授業で、学びのサイクル「つかむ」「学び合う」「まとめる」「振り返る」の効果的な活用を心がけ、生徒が主体的に深く考え、取り組めるような授業の展開を実践する。 ③ 新学習指導要領の実施に伴い、授業改善や評価計画の充実を図るとともに、「一人一授業公開研修」実施により、教員の授業力向上に努める。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は90.0%で、(昨年度を4.2P下回る)おおむね目標を達成したと考えられる。 【次年度の方針】 ・英語科・数学科では、習熟度別学習やT・Tなどの指導形態を工夫し、「ユニバーサルデザインの視点」を活かした授業づくりを行うなど、個に応じたきめ細かな指導を行う。 ・生徒の主体的で深い学びを実現するため、指導法の工夫やICTの利活用に取り組む。特に各生徒が持つタブレットやデジタル教科書を積極的に活用し、分かりやすい授業の展開を工夫する。 ・「一人一授業公開研修」の実施、その後の全体研修でのまとめ(振り返り)を実施することにより、教員の授業力の向上に努める。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 90%以上	① SC, MS, かがやきルーム指導員、学校図書館司書等との連携を強化しながら、チームとして生徒の状況の把握と支援に努める。 ② 配慮を要する生徒について、多様な立場や観点からの生徒の見取りや専門的な知見を、指導に生かす。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は95.3%で、(昨年度を2.0P下回る)十分に目標を達成したと考えられる 【次年度の方針】 ・支援を要する生徒の対応において、SCMや特別支援教育コーディネーターが支援の窓口となり、学年や関係教職員、SC, MSと連携を図りながら、教育相談部会として支援の場や支援者を調整するなど、早期対応を図り、チームとして支援を行う。 ・配慮を要する生徒の支援の状況や方向性などを、全職員で共有することで、校内支援体制の強化に努める。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 70%以上	① 教職員一人一人が、ミライムを活用して出退勤時刻の記録を確実にし意識を高めるようにする。 ③ 業務の見直しや効率化を図るとともに、会議や研修等の効率化と内容の精選を図る。 ④ 定期的に「リフレッシュデー」を設定したり、部活動の休養日を設けたりして、教職員の負担が軽減できるよう配慮する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は72.1%で、おおむね目標を達成することができたと考えられる。 【次年度の方針】 ・職員へ定期的に周知し、出退勤記録等個人の意識の向上を図る ・全職員にアンケートを実施して、具体的な業務改善策を考えていく。 ・会議や研修等の実施については効率化を図る。 ・業務の効率化を図るよう努め、定期的にリフレッシュデーをより工夫して設定する。
5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 教職員が、小中一貫教育の重要性についてさらに理解を深め、業務の精選を考慮しながらも、生徒や職員の交流や連携による実践(あいさつ運動)を行う。 ② 小中一貫各部会において、地域学校園内児童生徒の課題を的確に把握・分析し、必要に応じて連携を図りながら、実効性のある取組を推進する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は81.4%で、おおむね目標を達成したと考えられる 【次年度の方針】 ・小中乗り入れ授業やあいさつ運動においては、計画通り実施する。 ・各部会において、生徒の実態を把握・分析することで、より効果のある教育活動を実践する。

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 75%以上 保護者の肯定的回答 80%以上	① 学校ＨＰや各種だよりを活用して積極的に情報発信を行い、学校の教育活動に対する理解と協力が得られるようにする。 ② 家庭訪問、保護者会、三者懇談、オープンスクールなど様々な機会を捉えて家庭や地域との連携を図り、よりよい生徒の育成に努める。 ③ 陽西中学校地域協議会との連携を図り、地域の祭りや清掃などの奉仕活動に積極的に取り組む。また、「未来会議」を実施するなど、意見交換の機会を創生する。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は76.2%で、(昨年度を3.7P上回る)おおむね目標を達成したと考えられる。保護者の肯定的回答は、84.0%(昨年度を5.1P下回る)で、十分に目標を達成したと考えられる。 【次年度の方針】 ・学校ＨＰで学校行事や生徒の様子を発信する。また、学校からの一斉メールを活用して各種便り発信し、保護者の理解と協力を得る。 ・地域協議会や地域まちづくり協議会と連携したボランティア活動に参加して、地域に貢献できる生徒の活動を推進していく。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 90%以上	① 安全点検を、毎月確実に行うとともに、改善箇所の修繕を迅速に実施する。また、避難訓練の実施方法を見直し、より実践的な態度の育成を図る。 ② 台風や地震、大雨などの自然災害発生時には、校舎内外の巡視を行い、危険回避に努めるとともに、危険箇所の発見と早期対応ができるようにする。 ③ 事務部と連携して、学校予算の適切な運用を図り、環境整備に努める。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は95.3%で、(昨年度を2.0P下回る)十分に目標を達成したと考えられる。 【次年度の方針】 ・安全点検を毎月確実に実施し、破損箇所等の把握や修繕を行う。業者依頼する事案については、学校予算等を有効に活用して迅速に対応する。 ・予告なし避難訓練の実施など、より実践的な訓練の実施し、災害時に適切に判断し、行動がとれる生徒を育成する。 ・これまで同様、事務部との連携を図り、環境整備を行っていく。 ・特別活動等を活用して安全指導を強化し、生徒の安全への意識向上を図る。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 1人1台端末に関する研修に積極的に参加し、教科部会等校内研修で共通理解を図るなど、授業で効果的に活用できるように努める。 ② 全生徒対象の「ＰＣの日」を利用して、計画的なスキルアップの機会を設ける。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、90.7%で十分に目標を達成したと考えられる。 【次年度の方針】 ・入学時には「総合的な学習の時間」などを利用し、生徒がＩＣＴ機器をスムーズに利用できるよう、知識及び技能を習得させる。 ・授業の中で生徒がＩＣＴ機器を主体的に活用し学習する場面を、より計画的に設定する。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに 90%以上	① 時と場に応じた心のこもったあいさつの仕方についての指導を充実させるとともに、本校のよき伝統として継承していく。 ② 日常生活の中でのあいさつ指導に加え、生徒会各委員会や部活動等による、生徒主体のあいさつ励行を推進する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.8%で、十分に目標を達成したと考えられる。教職員の肯定的回答は、62.8% (昨年度より 23.7P 下回る) で目標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 ・生徒は、時と場に応じた明るくさわやかなあいさつができる。本校の伝統的なよさとして継承する雰囲気醸成されている。 ・地域学校園小中合同あいさつ運動を行う等、あいさつの活性化を図る。 ・日常生活における継続的なあいさつ指導に加え、生徒会活動等を通して、生徒の主体性を高めるよう、感染防止対策を講じながら、計画的に実施する。
	B 2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① チャイム着席、授業の開始・終了時のあいさつができるようにするとともに、服装や姿勢を整えて授業に臨めるよう指導する。 ② 教職員の共通理解、共通指導の充実を図る。 ③ 学業指導の充実とともに、きまりの遵守やマナー向上の意識を高めさせる取組を、生徒の主体的な関わりを増やすよう工夫する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、93.8%で十分に目標を達成したと考えられる。 【次年度の方針】 ・教師の率先垂範を基本とするとともに、教職員の共通理解・共通指導の徹底を図り、ルール作成等に生徒の主体的な関わりを増やす取組を工夫することで、引き続き規範意識向上の醸成を図る。
	B 3 生徒は、時間を守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに 80%以上	① 登校時間や授業開始時刻など、「3分前着席」を意識して生活できるよう指導する。 ② 生活委員会や学級委員長を中心に生徒自身の自治の力がつくよう指導の工夫を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、88.0%でおおむね目標を達成することができた。教職員の肯定的回答は、67.4%で目標を達成することができなかった。 【次年度の方針】 ・チャイム 3 分前着席の励行等、リーダーを中心に主体的に継続した取組を行う。
	B 4 生徒は、交通ルールを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 85%以上	① 教職員による登下校時の交通指導や見守りをより充実させる。また、交通ルールの遵守や交通マナーの向上について、生徒の主体的な関わりを意図的に設定するなど、学年や学級で繰り返し指導する。 ② 生徒の意識を高めるために、交通安全教室に外部指導者を招聘するなど、内容を工夫する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.0%で、(昨年度を 15.0P 上回る)十分に目標を達成したと考えられる。 【次年度の方針】 ・登下校指導の徹底や通学路調査などを実施し、生徒の安全に関する意識を高める取組を行う。 ・生徒の意識をより高めるため、安全指導内容の工夫改善や、生徒主体の取組の実施を検討する。 ・立哨指導を継続して行い、規範意識の向上を図る。また、交通ルール遵守やマナー向上にむけた意識の醸成を図る。

B5 生徒は、体育祭、文化祭など学校行事に積極的に参加し、協力して活動している 【数値指標】 全体アンケート 生徒・保護者の肯定的回答 90%以上	① 自主的・実践的な態度を育むため、体育祭や文化祭等の学校行事に、生徒の意見や創意工夫を取り入れるようにする。 ② 地域のボランティア活動を推進するための働きかけを積極的に行うとともに、活動の成果を掲示するなどして、生徒の自己有用感を高める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90.2%で、保護者の肯定的回答は 96.0%で、共に十分に目標を達成したと考えられる。 【次年度の方針】 ・時期や方法などを十分に検討し、立案の段階から生徒の自主性を引き出すような工夫を図る。 ・学校行事等では、より充実感の味わえる行事の設定について、教職員の共通理解のもとで再検討する。
B6 学校は、授業以外に様々な学習の場を工夫して設定し、学力向上に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 85%以上	① 基礎学力の定着、学力の向上を目指し、放課後のレベルアップ学習、夏休み学習サポートを実施する。実施方法に改善を加え、より効果的な運営に努める。 ② 地域協議会と連携した、学力向上のためのサポート事業を企画、運営する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は、78.2%で目標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 ・平日放課後のレベルアップ学習や夏休み学習サポート等について、地域協議会の協力のもと、実施することができた。 【次年度の方針】 ・レベルアップ学習、夏休み学習サポートを継続し、更なる基礎学力の定着、学力の向上を目指す。 ・地域協議会と連携し、運営方法や実施方法等について再検討する。
B7 学校は、教室や廊下の掲示物を工夫したり、花壇を整備したりして、環境美化に努めている。 【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 90%以上	① 生徒の心を育てるための、「フラワープロジェクト」を推進する。 ② 美化委員会及び、各学年委員会を中心とした役割分担を明確にして、主体的に活動に参加できるようにする。 ③ 各学年フロアの掲示物を工夫しながら、計画的に作成する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は、90.5%でおおむね目標を達成することができたと考えられる。 【次年度の方針】 ・校内の掲示物を定期的に更新し、各学年にフラワープロジェクトなどの校内環境美化に力を入れる。 ・心が温かくなるような掲示物や花壇の整備を生徒主体で実施し、豊かな心を育む。 ・美化委員会や学年委員会を中心として、学校環境をよくするために生徒が主体的に活動を行うようにする。 ・校内の環境整備を強化し、各学年フロアの掲示物を計画的に作成する。

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【数値指標に対する評価から】

・数値指標を達成している（または同程度と考えられる）項目は、全 27 項目中 13 項目(48.1%)である。そのうち教職員対象のものは 8 項目中(16 項目中、50.0%)、生徒対象のものは 13 項目(16 項目中、81.3%)となった。生徒は、達成度は高いが、今後の継続的な取組を強化していきたい。特に、A2「生徒の思いやりの心」についての取組は次年度の重要課題である。

【経年変化による評価から】

・経年変化で評価結果の推移を見ると、教職員は 3 項目(9 項目中、33.3%)が、生徒は 4 項目(10 項目中、40.0%)が昨年比で同程度以上である。学校全体が、やや落ち着きに欠ける環境になりつつある様子が見られる。

・コロナ禍による教育活動の制限は緩和され、行事等は以前の教育活動に戻しながらも工夫して実施できた。評価結果からは、B5（学校行事に積極的に参加している）の保護者と生徒のポイントが、生徒 90.2%、保護者 96.0%と高い数値で、ともに十分に達成されたと考えられる。

- ・ A 1 (進んで学習)や A 7 (宇都宮のよさ), A 9 (持続可能な社会), A 1 7 (小中一貫・地域学校園), A 1 8 (学校・地域・企業との連携)の項目については, 改善されている。
- ・ A20(教職員の働き方改革)では, 72.1%となり, やや改善されている。教職員個人の意識の向上と学校全体の新たな改革等, 今後の業務改善は急務である。
- 【今年度の重点目標等の観点から】
- ・「学習指導の充実」では, 様々な「対話」(グループ活動)に取り組み, わかる授業の展開に努めた。また, 家庭学習の習慣化のために, 自主学習用ノートの取組の継続や, A I 型学習ドリルの利用等により, 今後の学力向上が期待されるところである。今後も, 協働的な学びを通して「主体的に学ぶ」生徒の育成を目指し, 習熟度別学習や T・T など授業形態を工夫しながら, わかる授業の展開や I C T 機器・A L T (英語指導助手)の活用を充実させ, 学力向上への取組を強化していきたい。また, ローテーション道徳を適時実施するなど心の教育の充実にも努めていく。
- ・「生徒指導」では, 主体的に行動する生徒の育成を目指しているところであるが, 実施方法に制限がある中でも, リーダーを中心に工夫した学校行事を実施し, 生徒や教職員の集中力や対応力の高さを感じることができた。今後もさらに規範意識の向上を目指した取組を継続していきたい。
- ・「健康管理」では, 感染症予防対策を徹底し, 保護者会等の学校行事においてはサーマルカメラでの体温確認, マスクの着用, 換気の徹底や手洗いの奨励など, 学校及び保護者, 地域の連携のもとで, 安心安全な学校生活を維持することができた。次年度も生徒の安全と健康を保持しつつ, 過ごしやすい環境づくりに努めていきたい。
- ・「学校運営」としては, 工夫して学校行事を実施した。今後は, 学校内外で生徒がより一層活躍できる場の充実に努める。また, 組織力の強化を図ることができた。特に, 不登校・不適応生徒への支援の充実に努めるために, スクールカウンセラー(SC), メンタルサポーター(MS), 関係相談機関等との組織的な対応を継続することができた。
- ・「学校の特色ある教育活動」として, フラワープロジェクト(校内環境整備)や放課後学習支援, 夏休み学習サポートの充実に努めてきた。生徒・教職員・外部講師の熱心な取組の継続により, 成果が上がりつつある。今後も地域協議会との連携を図りながら充実に努めていきたい。

7 学校関係者評価

- 「自己評価」については, 「適切」100%, 「次年度の方針」については, 「適切」90%, という評価であった。
- 【自己評価】に関わること
- ・ 学校教育活動が円滑に行われている。生徒の評価が低くなっている項目もあるが, 80%, 90%を超えて, おおむね良好な数値である。先生方は, 長い目で見てゆったり見守ってほしい。
 - ・ 食農体験で関わりがあったが, 地域でも年々元気な挨拶をする生徒になってきている。
 - ・ A12 で, 肯定的でない 7.6%の生徒がなぜ否定的なのか検証することにより, 不登校を生まない学校経営を期待したい。
- 【次年度の方針】に関わること
- ・ 4 年間のコロナ禍のために活動が制限されていた影響が大きい。
 - ・ 人と人の心の通うあう対面での交流が少なくなっている。「心を育てる」ことは大変ですが, 理想に向かって前に進んでいただきたい。
- 学校教育活動全般について
- ・ 地域として, 生徒の活動を見守ったり, 体験したりできるようなサポートも今後考えていきたい。
 - ・ 現在の世界情勢や歴史を考えることにも時間をかけてほしい。
 - ・ 先生方の元気と笑顔が子どもの成長を促すのだと思います。焦らずゆったりと子どもたちに向き合っていただきたい。
 - ・ 巡回指導員・P T A・先生方で合同巡回指導を行ってみてはどうか、

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度は、生徒、教職員のコロナ禍以前の教育活動に戻しつつある工夫した取組を行った。保護者や地域の支援をいただいたことにより、学校生活全般において活気が見られ、良好な状態である。

次年度は、今年度の成果と課題を踏まえ、十分に検証をした上で、より実践的で効果的な取組を継続させていきたい。

- ・「確かな学力の育成」を図るために、教員は生徒にとっての「わかる・できる授業」の実践に努める。また、主体的・対話的で深い学びがある授業の取組を強化していく。
- ・「命」や「思いやり」、「感謝の心」などに指導の重点をおいた心の教育を全教育活動において実践する。
- ・特色ある取組としての、「放課後学習支援・夏休み学習サポート」を継続・充実させ、学びの保障に向けても取り組む。
- ・学校行事や生徒会活動、部活動などの機会をとらえ、生徒が主体的に活動できるような場面を積極的に、意図的に設定し、生徒の達成感や自己肯定感を高められるようにする。
- ・学級活動や総合的な学習の時間、学校行事における集団意思の決定やルール作り等の場面で、リーダー的な生徒の育成とともに、互いに成長させるための手立てを意図的に図る。
- ・不登校・不適應生徒への支援については、これまでの取組の成果を生かしつつ、引き続き個の特性や状況に応じた適切な支援方法を検討し、関係機関と連携を図りながら充実に努める。
- ・生徒一人一人に向き合い、生徒理解を深めながら、全職員でいじめの未然防止対策に取り組む。また、PTAや地域社会、関係諸機関とも連携しながら、早期発見・早期対応ができるように努める。
- ・ボランティア活動の充実を図り、地域に貢献できる生徒・学校づくりを推進する。
- ・夢や希望に向かって協働する力を育むようなキャリア教育を推進していく。
- ・地域未来会議を行うなど、保護者や地域住民が学校教育に参画する機会を増やす。また、各種便りの発行や学校HPにより、積極的に発信し、学校への理解と協力が得られるように努める。